

第3学年3組 社会科学学習指導案

指導者 大島 悟

1 単元 これからの暮らしのエネルギーを考える～脱原発^{いん}か否か、その判断の根拠は？～

2 学習の基盤

(1) 3月11日に発生した東日本大震災は、日本社会に大きな被害をもたらし、その復興への道のりはまだまだ遠い。なかでも日本社会全体にとっても、世界各国のエネルギー政策にも大きな影響を与え続けているのが、福島第一原発の事故とそれに伴うさまざまな問題である。原発の安全神話が崩れたなか、日本全国にある原発をめぐる状況は大きく変化した。原発が日本のエネルギー供給の舞台に登場して以来、原発の安全性を懸念する考えはもちろんこれまでもずっとあったわけだが、それが今日のように大きな声となって、「脱原発」の議論が巻き起こっているのは、これまでになかった状況であると言える。菅総理大臣が「脱原発」を宣言し、再生可能エネルギー法案可決への意欲をみせている一方で、各電力会社の株主総会では「脱原発」の決議はことごとく否決され、福島原発の事故を教訓とし、原発の安全性を高めながら今後も重要な電力供給源として期待する声は今もなお大きい。これからの暮らしのエネルギーを考える上で、原発を今後どうするかということは避けては通れない課題であり、全員が当事者であるのにもかかわらず人によって意識の差が大きく、価値判断が非常にむずかしい問題でもある。

今回の原発問題についての価値判断を例にとって言うと、私たちが社会科の授業で育てたい子ども像は「何が何でも賛成」「何が何でも反対」という判断（最初から議論にならない判断）をする子どもではないし、一つの事実から安易に判断をする子どもでもない。さまざまな事実をもとに、その妥当性を吟味しながら、広い視野から多面的・多角的に考え、判断する子どもである。この問題についてさまざまな資料を吟味、検討しながら時間をかけて子どもたちが価値判断をし、自分の考えを論述するなどの言語活動を通して学び合い、自分の見方や考え方を広げたり深めたりといった学習を行うことは、社会科ならではの思考力・判断力・表現力を育成するとともに、これからの持続可能な社会のあり方を考える上で非常に意義があると考えられる。

(2) 附属中学校3年生への事前アンケートの結果によると、「あなたは今後国内の原子力発電所をどう

原発をどうすべきか	附中3年生	NHK 世論調査(7月)
増やすべき	1 1.3%	3.0%
現状維持	4 6.0%	2 4.4%
減らすべき	2 2.6%	4 4.7%
すべて廃止	1 2.1%	2 1.4%
わからない, その他	8.0%	6.5%

すべきだと思いますか。」という問いに対し、右のような結果になった。この結果については、NHKが7月に行った世論調査よりも原発について肯定的な考えをしている生徒が多いという結果となった。「減らすべき」「すべて廃止」と考えている生徒は、今回の事故で原発の危険性が明らかになったことをもとに、安全面の理由をあげている生徒が多く、「増やすべき」「現状維持」と答えた生徒は電力不足への懸念や日本の経済活動への影響などをあげている生徒が多かった。中には、核廃棄物処理の問題に言及しながら反対論を述べたり、脱原発による産業の空洞化の問題や地球温暖化などの問題をふまえて、新聞などの情報から多面的・多角的に判断している生徒もいるが、ほとんどの生徒の判断理由は、根拠が浅い面が

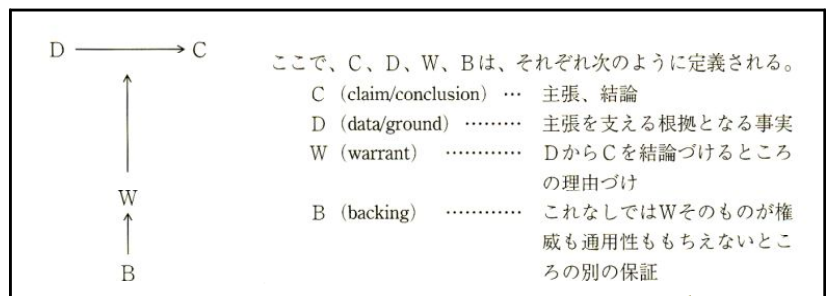
ある。無理もないことではあるが判断の根拠となる情報量も少ない。また、現在運転を停止している島根原発1号機の再稼働の問題についても、6月に山陰中央新報社が行った世論調査と同じ選択肢で調査を行ったところ、これについても県民の調査とは大きな違いが出た。(結果は下欄)

松江市にある島根原発は現在、1号機が定期点検中で停止中、2号機は稼働中です。3号機は建設中です。今後の島根原発についてどう考えますか。1つだけ選んでください。		
設 問	附中3年生	山陰両県民
運転を続けながら安全対策を強化していくべきだ。	71.0%	41.9%
十分な地震・津波対策が完了するまで、全機の運転を見合わせるべきだ。	13.7%	30.1%
安全対策には限界があるので、廃炉に向けた議論を始めるべきだ。	12.9%	30.9%
わからない、その他	2.4%	1.3%

一般の世論調査と生徒の意識の違い(中学生が原発について肯定的なとらえ方をしている)については、生徒の保護者の中に原発や関係企業で働いている方がおられることなども影響しているかもしれないし(そういう記述もあった)、2年生の地理的分野の学習において、原発が地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出しないため、環境にいいという認識の生徒がけっこう多かったことが関係しているのかもしれないが、はっきりとはわからないところである。逆に、脱原発の運動をしておられる方が身近におられるのではないかというような、非常に強い口調の原発反対意見を書いている生徒もいた。原発の問題はこれからの生活の中で考え続けなければならない問題であり、確かな根拠に基づいて判断することの大切さに気づき、この問題に関心を持って主体的に判断していこうとする力を身に付けていくことは、今の生徒たちにとっても必要なことであるということは間違いのないところではないかと考える。

(3) 今回の授業は1時間の特設授業ということもあり、指導のポイントを子どもたちの価値判断の根

拠にしぼって構想する。子どもたちには、これまでの学習やマスコミなどから得られた知識をもとに、原発を今後どうするかということについての判断をまず最初にさせる。その上で「なぜそういう判断をしたのか」ということについて、



トゥールミン図式(右図)を参考に、「判断のもとになった根拠となる事実」「その事実から判断することになった理由づけ」の部分を中心に考えさせたい。「判断のもとになった根拠となる事実」については、子どもたちが考えていく材料として、原発問題に関連する資料を、既習事項を中心に安易な形で提示したい。子どもたちが根拠とする事実や理由付けについては、グループで意見交換したり、できれば本来の自分の考えとは違う判断理由についても考えることによって、見方や考え方を広げていけたらと考えている。最終的に各グループで考えた価値判断の妥当性について全員で考え、この授業を通して考えたことをもとに、改めて価値判断を行わせたい。一つ一つの資料を時間をかけて読み取ったり、検討したりということはなかなかできにくく、その理由付けの妥当性についても十分検討することはできないが、今回は、価値判断するためにはきちんとした事実と理由付けが必要であるということを最低限とらえさせることを学習の目的とし、この問題の最終的な判断(それもきっとむずかしいだろうが)は、今後の状況の変化とともに、これからの子どもたちの判断に委ねたい。

3 本時の学習

(1) 目標

○原発問題についての価値判断を通して、確かな根拠をもとに価値判断をしていくことの大切さに気づくとともに、原発問題を通して、これからの暮らしのエネルギーのあり方について、さまざまな面から考えることができる。

(2) 展開

教師の働きかけ	生徒の活動と意識	教師の支援と留意点		
<p>○国内の原子力発電をどうすべきか、自分の考えを黒板に貼ろう。</p> <p>○その理由について、自分の考えを述べてみよう。</p>	<p>○「増やすべき」「現状維持」「減らすべき」「すべて廃止」のうちから選び、自分の名前を黒板に貼る。</p> <p>○なぜ、そう考えたのかを自由に発表する。</p>	<p>○先日のアンケートとは違う考えてもよいことを指示する。</p> <p>○できるだけ自分たちから言えるような雰囲気を作る。</p>		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>(増やすべき, 現状維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原発がなくなると電力が不足する。 ・ 原発関係で働いている人が困る。 ・ 経済成長が止まってしまう。 ・ 原発を停止したら地球温暖化が進む。 ・ 自然エネルギーがまだ普及していない。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>(減らすべき, すべて廃止)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故が起こる危険性がある。 ・ 安全性が立証されていない。 ・ 日本は地震が多いからより危険。 ・ 事故が起こった時の影響が大きい。 ・ 自然エネルギーが普及していく。 </td> </tr> </table>			<p>(増やすべき, 現状維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原発がなくなると電力が不足する。 ・ 原発関係で働いている人が困る。 ・ 経済成長が止まってしまう。 ・ 原発を停止したら地球温暖化が進む。 ・ 自然エネルギーがまだ普及していない。 	<p>(減らすべき, すべて廃止)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故が起こる危険性がある。 ・ 安全性が立証されていない。 ・ 日本は地震が多いからより危険。 ・ 事故が起こった時の影響が大きい。 ・ 自然エネルギーが普及していく。
<p>(増やすべき, 現状維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原発がなくなると電力が不足する。 ・ 原発関係で働いている人が困る。 ・ 経済成長が止まってしまう。 ・ 原発を停止したら地球温暖化が進む。 ・ 自然エネルギーがまだ普及していない。 	<p>(減らすべき, すべて廃止)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故が起こる危険性がある。 ・ 安全性が立証されていない。 ・ 日本は地震が多いからより危険。 ・ 事故が起こった時の影響が大きい。 ・ 自然エネルギーが普及していく。 			
<p>○判断の根拠について考えよう。最初に事実、あるいは事実に基づいた判断について考えよう。</p> <p>○グループになって、どちらの判断を図式化してみよう。</p> <p>○各グループの価値判断でもっとも自分が納得できる判断はどれか、考えよう。</p> <p>○国内の原子力発電をどうすべきか、自分の考えを貼り直してみよう。</p>	<p>○自分の判断の根拠となった事実やデータについて考える。また自分とは違う判断の根拠についても考える。(個人)</p> <p>○グループごとに、どちらかの立場に立つ</p> <p>○グループの代表が発表する。</p> <p>○各グループの判断について、自分が納得いくものや、納得ができないものや、その理由について考える。</p> <p>○最初の自分の考えを見直し、授業の感想を発表する。</p>	<p>○生徒が考えやすいように、判断材料となる資料についてはあらかじめ渡して、目を通しておくようにする。</p> <p>○各グループごとに2枚し、判断への道筋を図式化させる。</p> <p>○一つの事実判断の違いで、価値判断も変わってくることにについて、意見をもとに補足する。</p>		

(3) 授業研究の視点

○原発問題を考える際に、ツールミン図式を手がかりに、子どもたちに価値判断の構造をつかませて学習をしたことは、本時の目標を達成するのに有効であったか。